

# 仕事場に託児室併設

# 空き物件使い全国展開

## ママスクエア 来年度20拠点に

託児サービスのママスクエア(東京・港)は子どもを預けた場所でもできる拠点を全国展開する。各地の自治体と連携し、子育て支援に加え、空き家・空きビルの活用や雇用創出にもつなげる。このほど奈良県葛城市に1カ所目を開設した。2017年度までに約20拠点へ拡大を目指す。

### ママスクエアの拠点のモデル 空き家や空きビルを活用

託児室  
保育士を配置。  
育児相談にも  
応じる

ワーキングスペース  
コールセンター業  
務などシフト制で  
無理なく働く

カフェなどコミュニ  
ケーションの場も



# 子育て

## 2016

ママスクエアは「ワーキングスペース」と呼ぶ仕事場と、託児室を隣接させた「子どものそばで安心して働ける」スタイルの拠点を展開する。自治体の協力を得て、空きビルや空き家を使いスベ

ースを設ける。

保護者はママスクエア

が首都圏や関西圏の企業から受注するコールセンター業務などにあたる。主に1日3〜4時間程度のパートタイムを想定している。

ママスクエアが自治体から事業を受託し、運営に当たる。拠点の開設に

は地方創生関連の補助金などを活用する。葛城市の場合、市内の空き家を改修した。修繕などの経費は市がママスクエアに助成した。託児室には保育士が常駐するほか、保護者同士がコミュニケーションを取れるカフェも用意する。

16年度中に盛岡市内でも開設が決まった。そのほかにもママスクエアが交渉している自治体が複数あり、今後1年半で約20まで広げたい考えだ。

地方都市の場合、首都圏などに比べ賃金が低いなど、別のニーズの取り込みを狙う。

になるとの見方もある。雇用創出に加え、空きビルの利用で中心市街地のにぎわいをつくりだすことにもつなげる。

ママスクエアはすでに六本木ヒルズ(東京・港)などで託児室付きの共用オフィスを開業している。首都圏の大都市部での出店は私鉄や大型量販店、不動産デベロッパーといった企業との提携が中心だった。都市部では深刻な待機児童の解消を目指すのが、地方では空き

ビル対策や雇用創出など、別のニーズの取り込みを狙う。